第 1 回 玉野市新市民会館（仮称）在り方研究会 議事録

1.日時
令和 8 年 8 月 18 日（火） 13:30 ～ 16:00

2. 場所
玉野市役所 3 階 特別会議室

3. 出席者
【委員】
趙座長、江田副座長、宮部委員、大塚委員、三宅委員、大本委員、小林委員、土井委員、内尾委員、小野委員、落合委員 （計 11 名）
※宮部委員は欠席
【事務局】
柴田市長、齊藤総合政策部長、公共施設課津田課長、髙畠室長、三ヶ田主査

4. 傍聴者
１名

5. 配付資料
第 1 回玉野市新市民会館（仮称）在り方研究会次第
玉野市新市民会館（仮称）在り方研究会設置要綱
玉野市新市民会館（仮称）在り方研究会委員名簿
資料 1：研究会の目的と進め方等について
資料 2：玉野市の現状及びこれまでの検討経緯について
資料 3：近隣自治体施設の状況について
資料 4：文化芸術団体等の活動実態等に関するアンケート調査票（案）

6. 議事内容

１．開会
司会より開会宣言、資料確認、傍聴および議事録の取り扱いについて説明。
柴田市長より開会挨拶。（市長・総合政策部長は公務のため冒頭で退席）

２．委員紹介

司会より各委員の紹介。
委員過半数の出席により、本会議が成立している旨を報告。

３．役員選出
事務局案として趙委員を座長に推薦し、全会一致で承認。
座長指名により、江田委員を副座長に選出。江田副座長より承諾。

４．議事
（１）研究会の目的と進め方等について
座　長：この研究会は市民会館の整備の是非を問うものではない。最終的な是非は市が判断するので、この研究会の目的は、市の判断に必要な材料を整理して、最終的に市長に報告書として提出するまでが役割である。市民会館の整備を前提とした議論ではないので、ご了承いただきたい。
委　員：以前、公共施設の再編を議論する中で、玉野市総合文化センターの基本構想を報告書として取りまとめた。ホール・ギャラリー・調理室・図書館等の複合施設として、ギャラリーは市民美術活動や生活文化の発展の場として位置づけられていた。しかし総合文化センターがメルカへ移転した際にこの話はなくなり、令和５年の総合計画にも文化拠点作りの検討が記載されているものの、今回の資料には一切反映されていない。これは書き漏れなのか、意図的に排除されたものなのか説明してほしい。
事務局：市民会館の在り方を検討する上で、まずは費用に直結する本体規模等、核となる部分を固める必要がある。ギャラリー等の付帯機能については論点整理の中で必要という意見をいただければ報告書に反映していく方針である。
委　員：説明は理解できるが、文書に「ギャラリー」という言葉が一切残らない限り検討されているとは受け取れない。過去の報告書には明記されていたものが今回は文字としても残っていない。20 団体・約 2000 人が利用している実態を踏まえ、一考してほしい。
委　員：契約書作成の経験からも、議論の中で出た内容は明記して残すべきである。検討過程での意見はしっかり記録し、市長への報告義務を果たしてほしい。
委　員：論点整理は文化芸術のためのホールを検討する内容に見えるが、体育・子育てなど複合的な施設として効率化する議論も可能なのか。また、資料にある「過去の課題」は荘内市民センターのことを指しているのか、それ以外も含むのか。
事務局：子育て等の機能との連携も再編・建て替えの視点として重要であり、報告書の中で今後の方向性として意見を併記することは可能である。課題については、駐車場不足や設備更新費用など、過去のホール機能を持つ施設の議論から抽出したものである。

委　員：低料金運営を求める声がある一方、運営費の確保は難しい。人口減少・税収減・地方交付税の減少が見込まれる中、返済計画をどのように考えているか。

事務局：地方債の活用には条件があり、規模・内容によって使える財源も異なる。規模感を数値化しながら、返済可能性を含めた議論を進めたい。

委　員：メルカは簡易裁判所での調停により債務が一部免除された経緯がある。その状況で再度借入を行うことに対し、金融機関からの信用はあるのか。

事務局：地方債の借入については、市の財政指標といった判断基準もあるが、現段階ではまだそこまでの議論ではない。

委　員：ハレノワ等の類似施設について、年間の開催状況や収支、返還率等のデータを示してほしい。

事務局：他施設の内部的な数字までは把握できないが、可能な範囲で調査し提示したい。

委　員：市はどのような計画でコンサート等を興すことを考えているか。それによって規模も変わってくる。

事務局：市としてという段階の前に、使う側の視点と、財政的にどこまで対応できるかという視点を並行して整理する必要がある。有名アーティストを呼ぶのか、地域の発表の場なのかといった目的意識も踏まえて規模感を確認してほしい。

委　員：ホールといっても音楽・演劇等で規模や設備が大きく異なり、漠然とした「ホール」という表現では市民に説明する際の判断材料がない。今の文化センター施設のままでもよいのではないか。ギャラリーもなく、雲をつかむような文章で、どう意見を書けばよいか分からない。

座　長：本研究会はゼロベースでの検討であり、まずは規模・設備の必須条件と理想条件を整理し、そのたたき台を今回の議論で作成することが第一段階である。

事務局：現段階は各団体の最低限必要な活動規模を集める段階であり、これがないと費用の検討ができない。いただいた意見は報告書に反映していく。

委　員：ホールでは災害時に座席が障害となり避難所として使えない。今あるレクレセンター等の施設を活用し、有事の際に避難所にもなり得る多機能な施設が望ましい。

委　員：本研究会の目的である基礎的条件整理のための報告書の作成が前提であることを、まず皆で共通理解したい。アンケートによる意見収集がその材料になるという理解でよいか確認したい。ギャラリーについても、当初資料に記載がないという点は議事録に残し、可能であれば文言の差し替えも検討してほしい。

委　員：厳しい財政状況の中、老朽化により廃止した市民会館を今新たに整備しようとする背景として、財政状況は改善したのか。市庁舎・病院等、大規模事業が続く中での財政的な見通しを確認したい。

事務局：財政部局ではないため詳細な回答は控えるが、大規模事業が重なる中での財政的な心配は理解している。複合的な機能を持たせることで有利な地方債の活用が可能

になる場合もあり、何が譲れない部分かを確認しながら検討したい。

委　員：これは建てることが大前提の話し合いなのか。耐震改修等で今の施設を使う考え方はないのか。
事務局：建てるのは前提ではない。既存施設の改修パターンも含め、複数の選択肢を検討する段階であり、この段階で結論を狭める必要はない。
委　員：ゼロベースだとイメージしにくい。玉野市に近い人口規模である備前市、新見市等といった他市の同規模ホールの機能・予算の実例を示してもらえると、議論が進みやすい。
座　長：そうした情報も準備して提示してもらいたい。
委　員：本会の目的がぶれないよう、アンケート案や対象団体が十分かをこの場で検討すべきである。愛育委員・民生委員等、より広い団体にも意見を聞くべきではないか。
委　員：過去に広島等の施設視察を通じて議論を深めた経緯がある。今回の資料はホールの機能に終始しており、方向性を掴む材料として不十分である。備前市・新見市等は入場料収入で運営が成り立つ実例があるが、玉野市で同様に維持できるか一つ一つ考えると意見が言いにくくなる。予算の見通しがないと、どんな施設を作るかも検討しづらい。
事務局：玉野市の状況や近隣自治体の資料が後半にあるので、それらを見た上で意見をいただきたい。
座　長：時間の都合もあるため、議事（2）（3）に進めさせていただく。ご意見を踏まえ、玉野市の状況や近隣自治体の資料を確認しながら議論を進めたい。

（2）玉野市の現状及びこれまでの検討経緯について
事務局より、資料2に基づき説明。
【質疑応答・意見交換】
特に質問・意見なし。

（3）近隣自治体施設の状況について
事務局より、資料3に基づき説明。
【質疑応答・意見交換】
特に質問・意見なし。

（4）各種団体に対する調査手法について
事務局より、資料4に基づき説明。
【質疑応答・意見交換】
座　長：各種団体へのアンケート調査に関する説明であった。この件は本日の議論の中でも

特に重要である。議論のベースとなる材料を整理する上で非常に重要な部分であるため、実際にこのアンケートを受け取る立場になって考え、分かりにくい点や改善した方がいい点、不十分な点、また効果的な調査の方法について、幅広く意見をいただきたい。

委　員：この調査についても、ギャラリーの件は一切入っていない。

委　員：入っている。設備名の欄でギャラリースペースを配置するかしないかという項目がある。

委　員：ギャラリーというのは照明・壁・高さなど、いろいろなことが必要になる。音響などは細かく出ているのに、ギャラリーにもそういった課題があることが反映されていない。箱を作ればいいという話ではなく、収蔵庫やギャラリースペースというのは絵をかけるだけではない。20 団体がいる中で、活動内容を書く欄がない。

座　長：例えばどういった項目があればよいか。

委　員：広さ、壁面、一番大切な照明、床面積。これらが揃っていれば、どこでも誰でも使えるのではないか。

委　員：題目の「文化芸術団体等」というところについて、青年団体等のそれ以外の団体にも発送されるのか。式典等での利用実績もある。

事務局：ホールの規模を考えるための調査であるため、利用実績のある団体を中心に送付を予定している。文化協会に登録されている団体や学校の吹奏楽部等も含む。他に聞いた方がよい団体があれば意見をいただきたい。

委　員：成人式等の式典でもマリンホテル等を使わせていただいており、新しい施設ができればぜひ使いたいと感じているが、資料を見るとアリーナに対する質問のようで、音楽のことにしか触れていないように見える。「文化芸術団体」という言葉が何を指すのか分かりにくく、これだけ見ると我々の団体は関係ないと捉えてしまう。音響やギャラリーについても専門外であり「あればいいな」程度の認識でしかないため、ステージ利用者向けのアンケートに見えてしまう。もっと幅広く見えるようにすべき。

委　員：音楽・演劇だけでなく、相撲等のスポーツにも使われることがある。文化芸術に秀でた人の発表の場、美術品を預ける場合の照明や湿度管理の条件など、チェックマークだけでなく「どういう機能が欲しいか」を自由に書ける文言があるとよい。

座　長：自由回答できるイメージか。

委　員：そうである。ギャラリースペースについても、預かる場合の条件、シャワースペースの規模、着替え室の規模など、より細かく書きやすいようにしてほしい。難しければ団体ごとに個別の資料を作るのもよい。

委　員：この資料を見るとほとんど音楽館向けである。音楽で一番大切な演奏前に各楽器が音を合わせる防音されたチューニング部屋が抜けている。それとシャワールームも。

委　員：チェックがなければその他に書けばよいのではないか。
委　員：チューニングの部屋というのはどのホールにも必ずあるものであり、その他欄に書くような扱いの施設ではない。
委　員：分かった、調べてみる。
委　員：必要なものはそれぞれ異なるので、書く欄をしっかり設けた方がよい。ホール等に縁がない人に対しては、有事の際の避難場所としての視点で書けるような、もっと広い目線での項目を作ってほしい。
座　長：避難場所としての設備として、どういったものが考えられるか。
委　員：シャワー室の子供の使い勝手、子供用トイレ、ベビーカーの通行、授乳室、演奏中の子供の一時預かりスペースなど。それが有事の際には子供の憩いの場にもなり得る。
委　員：市民会館としての機能を尋ねる設問の後に、重要視される項目を聞く構成になっているが、その他欄に「ぜひ必要と思われるものをお書きください」という一言があれば、もっと書きやすくなるのではないか。使う人だけでなく、来場する側に座席の座り心地等の意見も聞けるとよい。コミュニティへの配布も含め、回答期間について十分な時間を確保してほしい。8 月末が近く、締め切りが厳しい。
委　員：今ある施設を使うとした場合、どこがよいか、どういう改修をすれば使い勝手が良くなるかという聞き方もあればよい。
委　員：使用実績のある団体以外にも配布するのであれば玉野市外、たとえば大阪からの意見聴取も一つの方法ではないか。宣伝にもなり、運営を考える上でマーケットが広がる。
委　員：社会福祉協議会として、福祉関係の主だった団体にはアンケート調査をしてもよいと思う。ホールを作るのであればバリアフリー機能は必須であり、身体障害者福祉連合会や手をつなぐ育成会等には、どういう機能が求められるか丁寧に確認した方が、付帯設備を検討する際の参考になる。
委　員：オストメイト対応のトイレ等、当事者でなければ分からない移動時の広さ、観覧時の個室ブース等といった配慮点について、直接該当団体に聞くべき。
委　員：そもそも必要かどうかという観点から、「特に課題は感じていない」「現状の施設で事足りている」といった表現も含め、入り口の設問を整理すべき。また、利用実績がある団体は芸術カテゴリに限らず、商工会議所や PTA 等も対象とすべきで、施設の利用実績を網掛けとして対象にするのが漏れが少ない。アンケートの各項目にフリーコメント欄を設け、気づきを表現してもらえるとよい。広く声を集める観点では、市のホームページ等でパブリックコメント形式の書式を用意し、個人でも意見を出せるようにする方法もある。
委　員：アンケートの周知は、ホームページや広報への掲載だけでは見てもらえないことが多い。利用者に対して個別に声かけをする、利用時にお渡しするなど、丁寧な周知

方法が必要。

委　員：利用されている施設に置いておくことで気づきやすくなる面もある。

委　員：それでも一人ひとりへの声かけが必要である。

委　員：労働団体としても、使っている人に聞いていただければ、働く者の意見も吸い上げることができる。

座　長：使っている方の意見を効率的に吸い上げるための方法について、他に意見はあるか。

委　員：学校であれば PTA を通じて、保育園であれば LINE 等の連絡手段を通じて、農業関係であれば青年部を通じて、移住者グループ等、それぞれの団体にアンケートを取るのがよい。

委　員：組合団体として、加盟組合にヒヤリングしたうえで結果を集約しアンケートに反映する、あるいは加盟組合経由組合員にアンケート記入をお願いし集約することも可能。サンプル数の確保にもつながる。

委　員：市民への周知は、コミュニティの 25 支部に、会長・副会長・役員宛てに 3 部程度送付すれば、玉野市民への周知としては十分ではないか。

委　員：3 部送るだけでなく、団体に所属する方や利用者にも行き渡るようにすべき。

委　員：コミュニティは組織であるため、各支部に 3 部送れば十分把握できるのではないか。

委　員：資料作成・配布には予算がかかるため、書面での配布、データ送付による依頼等、配布方法について予算面も考慮してほしい。

事務局：多くの方に聞くことが前提のような意見になっているが、例えばコミュニティの方にステージの大きさ等について客観的な回答をいただけるのか。

委　員：今使われている方へのアンケートと、市民全体に市民会館についてどう思うか聞くアンケートは、内容が異なるのではないか。

事務局：まずは市がどう判断するかの核となる部分を、使われている方の意見を踏まえながら整理したい。今後の有事対応等の機能追加については次のステップと考えている。ギャラリー等の必須機能といった核となる部分を整理しながら、規模感が固まった段階で実際に近い規模の施設を見てイメージを固めることも考えられる。ステージの規模や客席数など、事業費に直結する部分をまず議論・整理したい。その他欄に書きやすい表現の工夫や、オーケストラピット等の個別機能についてもう少し具体的に書ける様式にすることを検討したい。

委　員：設問 6 の聞き方について、項目数と番号の対応が分かりにくい。

事務局：優先順位をつけられる形式にしたが、表現を工夫し、詳しく書ける様式にしたい。

委　員：規模感の聞き方について、活動経験がない人には千人規模が必要かどうかの判断が難しく、「大きい方がいい」という答えになりがちである。何人程度が入れればよいか、汲み手側にも分かりやすい表現が必要。また、レクレセンター等の既存施設を使う場合の駐車場・バス停等の移動手段、新設する場合の駅近くの土地の制約等

も踏まえた検討が必要。

委　員：あくまでアンケートであるため、まずは「これが必要か不要か」という大きな括りで問うだけでもよいのではないか。今使っている施設で賄えるならば新施設は不要という意見もあり得る。建てるかどうかも決まっていない段階で、設備の詳細を問うのは後回しでよい。5 年前に廃止したものをなぜ今作ろうとしているのか、市側が急いでいるように見える。ギャラリーが意見に挙がらなかった場合にできなくなってしまうことも踏まえ、最初の段階から必要か不要かという意見を取り入れるべき。

委　員：資料の大部分が設備・規模等といったホールの詳細に関する内容であり、市民会館全体として、ホールか、市民会館か、文化施設かといった方向性を問う設問が先にあるべき。まず「作る」かどうかを議論し、その後に規模等を検討する順序にすべきで、タイトルが消えないようにすることが最終段階の判断であるべき。

委　員：アンケートは幅広く「必要か、不要か」から聞き、既存施設の利用を含めたどこの施設を使うか、作るならどこがよいか、最寄り駅等の選択肢も示すべき。

委　員：これは 4 番くらいまでの設問でよいのかもしれない。

事務局：これまでも「必要か、不要か」という議論はあったが、必要だという声が出ても、具体的な規模・事業費の議論がなかったことから、具体的な議論にまで進まなかった。今回はまず核の部分を整理したいとの方針である。

委　員：市がどれぐらいの予算までなら耐えられるかを先に示してほしい。

事務局：それが言える状況にない。同じ事業費でも全額市負担か、国・県による財政的支援があるのかで大きく異なる。印象づけたり議論を誘導する恐れがあるので具体の数字はできるだけ避けたいが、例えば 200 席であれば既存施設の改修で対応できる可能性があるが、400～500 席が必要となれば別の対応を検討する必要がある。ピアノやホワイエ等、踏み込んだ内容をアンケートで聞くことに抵抗があるならば、まず現状の活動内容と「今の施設で足りる／手を加えれば足りる／満足している」という回答段階と、今後の検討にあたって本来必要な規模を問う段階を分けた調査票にすることを検討したい。

委　員：事務局は専門家でなく、ある程度いろいろな人に意見を借りないとこれだけの項目を作れなかったと思うが、これを見た限りではほとんど音楽ホールに関する内容であり、集まった委員が音楽ホールを作ることを前提とした集まりであるかのような求め方をされると困る。もう少し余裕のある意見の取り方をする第 1 回のスタイルが欲しかった。

委　員：利用されている人がどういう使い方をしているかもアンケートに書いてもらうとよい。

事務局：活動実績について 3 年分程度聞かせていただくことを検討している。ホールの形状もシューボックス形式、アリーナ形式、扇形形式等によっても異なるため、「ホ

ール」という表現がどうしても音楽ホールを想起させてしまう点は理解しており、より分かりやすい表現があれば教えていただきたい。

委　員：アンケートの題目が硬い印象で、「新市民会館の規模感について」という表現では「市民会館を作るのか」と聞こえてしまう。「新市民会館ができるとすれば」といった聞き方の方がよい。このままではこのアンケートで内容が決まってしまうように見える。

委　員：同様の印象を受ける。

座　長：送付時に目的を説明する別紙を１枚同封してはどうか。整備の是非を問うものではないという前提を共有する内容を添えるのがよいのではないか。

委　員：それは絶対必要だと思う。

委　員：それでも「市民会館ができるらしい」と誤解される可能性が高い。

事務局：「文化芸術団体等」という表現も役所的であり、タイトルに「新市民会館」が入っている以上、整備が前提と思われてしまう。ホール利用者へのアンケート調査など、もう少し柔らかい表現を検討したい。

委　員：「市民会館」という言葉自体を書かない方がよいのではないか。

委　員：それを書かない方が、何かができることを前提としないアンケートとして書きやすくなると思う。

委　員：報道機関の記事によって事実と異なる印象、例えば統廃合の説明会が実施されたかのような報道が広がった過去の例もあり、今回も市長の発言と合わせて「市民会館を作るための研究会」という印象が既に広がっている可能性がある。その状態でアンケートを出せば誤解を招くと思われる。

委　員：事務局としては、核となる部分が整理できれば具体的に進むという思いを込めて研究会を立ち上げているのは理解できる。広報たまの等で、研究会が立ち上がっていることを詳しく説明する記事を掲載するのも一つの方法である。多少の誤解が生じる可能性はあるが、丁寧に説明を尽くすことが必要である。

事務局：整備を前提にしないということは冒頭から繰り返し説明している。リフォームで済むのか、新設が必要なのか、そもそも玉野市の財政では耐えられないのか、そういった印象を先に与えることは避けたいが、今使われている方が満足していないという声がこれまでも出ているため、実態を数字で把握し、地に足のついた議論をしたいと考えている。

事務局：いただいたご意見を踏まえて調査票の工夫をさせていただきたい。

委　員：皆様からいただいたご意見を踏まえて、調査票の修正については事務局に一任という形でよろしいか。もう少し自由回答ができるように、音楽ホールだけでなく幅広い意見を取り込めるようにという方向で進めさせていただきたい。それでは事務

局にて修正の上、アンケートに着手していただくようお願いする。

５．その他

（１）その他

事務局より、修正後のアンケートについて、委員に再送し意見を募る機会を設けることを説明。

委　員：修正されたアンケートを各団体に配る際、委員としては修正版を見た上で意見を出せるようにしてほしい。

事務局：修正版を委員にお送りし、改めて意見をいただく機会を設ける。締め切りを少し延ばす形で対応したい。

委　員：資料に「県内県外のホール機能を有する施設の調査・視察を実施」と書かれているが、視察した施設の利用状況、入館料収入、電気・ガス・水道等の運営コストのデータがあれば教えてほしい。

事務局：12 ページに一部抜粋を記載しているが、公表されている情報や聞き取りした内容が中心であり、公演ごとの詳細な内訳までは把握していない。

委　員：利用率だけでは分かりにくい。どのような目的で使われ、どの程度の収益があったのか、もう少し詳しく知りたい。

事務局：施設側の使用料は利用日数に基づくものであり、観客数による収益は主催者側の話になるため、把握している範囲で年間コストや利用率の情報を示したい。

委　員：作った施設が赤字経営で成り立たなくなったら意味がないため、経営が回るかどうかを判断できるデータが必要である。

事務局：旧市民会館の年間利用日数である約 50 日や、年間収入 60～70 万円程度等といったデータはあるので、個人情報に配慮した形で参考資料として示すことを検討する。

委　員：かつての市民会館が赤字になった要因は、利用者数の少なさなのか、常駐職員の人件費なのか判然としない。学芸員がいないことで公演を呼び込む力が不足していたのではないか。

事務局：今回の議論の中で気になる点として承知しており、今後の資料提示の中で工夫したい。

委　員：次回までに、市内既存ホールである荘内公民館、すこやかセンター、ミネルバ等の年間稼働率についても、同じ基準で比較できる形で示してほしい。

事務局：統一したレイアウトで、異なる施設でも比較しやすい形で用意したい。

委　員：既存施設のレクレセンターや荘内公民館等を実際に見に行く視察の機会を設けてほしい。目で見て感じることで意見が出やすくなる。

事務局：アンケート結果や次回の議論を踏まえ、視察の実施可能性について検討する。

（2）次回日程について
事務局より、第 2 回は 11 月頃、新庁舎にて開催予定であることを報告。視察の実施可能性も含め、日程は追って連絡する旨説明。

6．閉会

司会より閉会挨拶。16:00 閉会。